

安全目標検討合同WG 趣旨書

2024年4月30日

- ◆我が国での安全目標の議論は、原子力安全委員会、原子力規制委員会、原子力学会リスク部会・原子力安全部会、学術会議などで行われ、文案や報告書などが公開されている。
- ◆しかし、未だに法的な位置づけでの制定には至っていない。
- ◆原子力学会「事故調提言フォローを基盤とした未来の日本原子力学会の活動への提言」(2022年5月27日)の「2.2.1(a) 安全目標制定、リスク情報を活用した活動」に「安全目標の最終的な制定に到達することを目的として、関係機関と今後の進め方についての議論を行う方向で取り組むことが必要と考える。」との記載がある。
- ◆この具現的対策として、安全目標に関する検討WGをリスク部会と原子力安全部会との合同で開始することし、2024年春の年会で承認された。

安全目標検討WGの開始について

➤ WGの名称、目的、体制、期間(工程)、実施事項

- ① 名称: **安全目標検討合同WG**
- ② 目的: 我が国の安全目標が最終的に正式に制定されることを目指して、多くの関係機関が原子力**安全目標にかかると議論に参加できる基盤的なWG**とする。このWGを契機にして、原子力学会主催で、関係機関(規制、事業者、メーカー、研究機関、他学協会など)、学会技術部会にも声をかけた専門委員会に発展していけるような会議体を目指したい。過去の検討や海外の検討を調査しまとめることも含むが、それは情報の共有を目的とするものである。**勉強会や意見交換会に留めず、その先の制定につながる活動にする。**
- ③ 目指す成果: 1年間の議論の成果としてWG報告書を作成する。WG報告書には学会WGとしての安全目標案(ヒエラルキー構造)を示すとともに、その位置づけ、使い方なども記載する。さらに過去に国内で議論された経緯として多くの文書や文献などが公開されているが組織横断で検索できるように、概要を示し、元文書などは引用する形でアーカイブを試みる。

経緯

安全目標が我が国で議論された20年あまりを振り返る。ほかにもリスク情報活用などのセミナー、シンポジウムの議題の中で議論されていることもある。これらの文献から論点(課題、成果、懸念点など)を抽出し、学会安全目標の議論に供する。

原安委、規制委員会の動き		学会等の動き	
2003年12月	原子力安全委員会 安全目標専門部会「安全目標に関する調査審議状況の中間とりまとめ」		
2006年3月	原子力安全委員会 安全目標専門部会「発電用軽水型原子炉施設の性能目標について -安全目標案に対応する性能目標について-」		
2013年4月	原子力規制委員会「安全目標に関し前回委員会(平成25年4月3日)までに議論された主な事項」	2014年9月	日本学術会議総合工学委員会工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会報告「工学システムに対する社会の安全目標」
		2016年8月	日本原子力学会 原子力安全部会夏期セミナー「リスク情報の活用と継続的改善に関する論点」
		2016年9月	日本原子力学会秋の大会 原子力安全部会企画セッション「安全目標の活用にかかる現状と課題」
		2016年	電力中央研究所報告「我が国の原子力分野における安全目標の活用-2003年安全目標案の背景と実際から学ぶ-」
2018年4月	原子炉安全専門審査会・核燃料安全専門審査会「原子力規制委員会が目指す安全の目標と、新規制基準への適合によって達成される安全の水準との比較評価(国民に対するわかりやすい説明方法等)について」	2018年3月	弥生研究会 安全目標に関する研究会「「安全目標」再考-なぜ安全目標を必要とするのか?-」
2018年5月	原子力規制委員会平成30年第8回臨時会 炉安審・燃安審からの回答報告	2018年8月	リスク部会シンポジウム「「安全目標」再考-なぜ安全目標を必要とするのか?-」
2019年	IAEA, TECDOC-1874 “Hierarchical Structure of Safety Goals for Nuclear Installations”		
		2019年11月	リスク部会・東大・NRRCシンポジウム「安全目標再考-なぜ安全目標を必要とするのか?-Part2」
		2020年	山口ら, 日本原子力学会誌「安全目標」再考 我が国でのあり方を問う

体制と運営

- ◆ WGは両部会の共同なので、両部会の部会長が共同主査となり、WGの運営について協議して進める。WG会合の議長は交互に務める。
- ◆ 委員は、現時点で13名であり、WGでの資料作成、議論に責務を負う。一方、意見を出すことは出来るが基本的に傍聴となるオブザーバも設定した。
- ◆ 安全目標案を秋以降で議論する際、拡大WGとして有識者などを数名、加え、レビューする予定である。
- ◆ 毎WGの日程調整、会議案内、WEB設定、資料収集・整理、議事録・資料の配布は、小野寺氏と国政氏が担当。資料はリスク部会さくらぽけっとにPW付で格納する。公開用に簡潔な議事録と公開可能な資料を両部会HPに掲載する。
- ◆ 当面はWEBで進行するが、可能であれば対面(+WEB)での開催も考える。

共同主査		成宮 祥介	JANSI			
		山本 章夫	名古屋大学			
委員	1	蛭沢 勝三	元東京都市大	9	更田 豊志	NDF/東大
	2	小野寺 将規	MRI	10	本間 俊充	NRA
	3	河合 勝則	MHI NSエンジ	11	丸山 結	JAEA
	4	国政 武史	関電	12	村松 健	JAEA/元・東京都市大
	5	白井 孝治	電中研	13	山中 康慎	NDF
	6	高田 毅士	JAEA			
	7	鄭 嘯宇	JAEA			
	8	成川 隆文	東大			
オブザーバ		田中 太	MHI		山岡 功	JANSI

- 【1】 **今までの検討からの論点抽出**: 文書、議事録などに課題として記載されている項目をリストアップしWG委員からの意見(課題や懸念)と合わせて整理し、WGで扱う論点を抽出する。その際、課題として指摘された以降の取り組みも考慮し、WGとしての論点とする。
- a. 国内における過去の検討(旧原安委の安全目標中間とりまとめ、性能目標、規制委での議論、炉安審・燃安審の意見など)
 - b. 国内学会におけるセミナー等での議論
 - c. 海外における安全目標検討と活用の状況(安全目標を制定していない国も含む)
 - d. WG委員からの意見
- 【2】 **WG案作成**: 論点の整理を踏まえて、原子力学会のWGとして、安全目標の必要性、位置づけ、定量・定性的安全目標の内容、性能目標・管理目標との関係、使い方の案をまとめる。

- 【3】 **レビュー**: 過去に国内で安全目標の議論を行った有識者などを加えた「**拡大WG**」を数回開催する。資料は【2】について、意見、指摘をもらい、内容を修正する。必要に応じて、「**東大/JAEA安全目標に関する検討委員会**」や「**電事連・ATENA**」との意見交換も行う。
- 【4】 **WG報告書の作成**。構成としては、次の項目を含む。
- ・学会WGの安全目標(上記【3】の結果)
 - ・安全目標に関する文献概要(アーカイブとして利用可能な整理)
- 【5】 2025年度以降の計画の検討。継続する場合の体制と課題の策定。あるいは、専門委員会への移行が可能かどうかも検討する。

スケジュール

2024年度	1 st Q (4-6)	2 nd Q (7-9)	3 rd Q (10-12)	4 th Q (1-3)
WG ▼ 拡大WG ▼	▼ ▼ ▼	▼ ▼	▼ ▼ ▼	▼ ▼ ▼
【1】論点抽出 文献整理	■		■	
【2】WG案作成		■		
【3】レビュー			■	
【4】報告書作成			■	
【5】次年度計画				■